

造形表現活動と鑑賞活動の関連をはかった学習方法の開発

國清あやか 若元 澄男 中村 和代 保田 利恵

1. 研究の経過

これまで造形活動は個人的な感覚による活動と考えられ、個人の資質や能力を育成することが重視されてきた。自己表現偏重の教材化と授業実践がすすみ、表現しっぱなしの状態を生み、造形表現を高めることができなくなる状況も見られる。

こうした状況に対して、表現活動の過程において、「思考する」行為をとりいれることが重要だと考え、造形要素である色、材料、形、構成、表現方法・技法等に焦点化し、自分の思いと表現との関係を振り返る鑑賞活動を設定した授業づくりを研究してきた。

(1) 造形要素を系統的に学習する題材開発

造形表現・鑑賞は、心的イメージを視覚的方法によって表現したり鑑賞したりすることを通して、自分なりの意味や価値を見だし、自分自身やまわりの世界を認識することである。よって、子どもが対象に出会ったとき、対象へのイメージを引き出し、それを表すための手だてを多様にもたせることが教師の仕事だといえる。いくら「自由に」、「主体的に」、「豊かに」と子どもに呼びかけても、イメージが膨らまなければ、またその表現方法や手段がわからなければ、子どもたちが感じたり表現したりできるわけがない。そこで、子どものイメージや思い「表現したい」という意欲を中心に据え、造形要素や表現方法・表現技法の理解や体験を基にした、造形的表現力・鑑賞力を形成する授業づくりが必要だと考えている。そのためには、造形要素や表現方法・表現技法について系統的に学習するカリキュラムを編成しなければならない。

例えば、色彩学習にこだわった色水づくり、形態学習にこだわった見立て遊び、材質学習にこだわった材料体験、あるいは表現技法においてもパブルアート、スパッタリング、スクラッチなど一つ一つ確実に身につけられるように題材を構成している。もちろん造形表現を行うためには、色彩学習を中心に据えたとしても必然的に、形態・材質についての学習も伴ってくる。その題材において、どんな力を育成したいのかを教師

が明確に持つておく必要がある。子どもたちが、系統的な学習で獲得した力を活用し、自分のイメージや思いに合わせて、色、形、材料、表現方法・技法を自分なりの価値判断で選択し、表現できるように、題材開発を行っている。

(2) 表現と鑑賞の一体化をめざす授業づくり

本校造形科では、表現を生み出すとき、「イメージする思考過程」を重視し、思考する行為を学習の中にとりいれている。思考する行為とは、対象に出会い、自分の思いやイメージを膨らませ、主題を決定し、構想を練り、制作するといった活動の過程において、造形の要素となる色、形、材料、構成、表現方法・技法に観点を置き、自分のイメージと表現との関係を振り返る鑑賞活動である。

そのさい重要なのは、友達や教師と見方・感じ方・表し方について観点にそって対話による鑑賞交流をはかることである。作者の思いを聞いて、鑑賞者がアドバイスをする場合もあれば、鑑賞者が作品から受けるイメージを伝え、それを受けて作者が自分の作品を振り返り制作に活かすこともある。それぞれの題材において、あるいは制作段階において交流活動の設定の方法は様々考えられる。いずれにしても、造形言語を介した交流活動という鑑賞の場を設定することで、造形要素の理解を深めたり、それらを選択する力を身につけたり、表現技能を高めたりしながら、スパイラルに自己表現を追究できるようになると考えている。言葉に置き換えるからこそ、思考は進むのである。自分とは違う「他者」の造形的なものを見方や感じ方・表し方の違いを比較し、よさを分かりあうことが、同時に、自分の表現を見つめ直すことにもつながる。自分の思いを語り合うことで感じとる力、思考する力をいっそう豊かにし、自分なりの価値観を見出すことにつながるであろう。

以上2点の考えを実際の授業をもとに検証し成果と課題を明らかにした。

2. 授業の実際

(1) 題材「テーマを色と形で表そう」

ー成長のシンボル「蝶」をつくろうー

(2) 指導目標

- 成長のシンボル「蝶」を表現することに関心を持って取り組める。
- なりたい自分像を思い描き、イメージを膨らませ、自分だけの成長のシンボル「蝶」の構想を練ることができる。
- 表現主題を明確に持ち、表現意図に合わせて表現方法、色・材料・形、表現技法を駆使して表現を追究することができる。
- 友達と交流し、イメージや造形感覚の違いを感じ取ることができる。

(3) 指導計画 (全12時間)

第1次 成長のシンボル「蝶」のイメージを構想する
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第2次 成長のシンボル「蝶」を表現する・・・・ 8

(4) 題材について

① 題材観

本学級の子どもたちは、3年生の時から自分の目標をかかげ、自分の成長を振り返り、成長の歴史を残してきている。そのシンボルとして、成長過程にある自分たちを「青虫」ととらえ、なりたい自分像を成長のシンボルである「蝶」ととらえて、日々目標に向かって生活している。5年生に進級するときには、「蝶」になり新しいクラスに飛び立とうと誓い合っている。4年生も残すところ、数ヶ月。成長のシンボルである「蝶」を表現することを通して、子どもたち一人一人がなりたい自分を今一度見据え、成長できるようにと願った本題材を設定した。

本題材では明確な主題を持って表現を追究させることが重要だと考えている。主題は、自分なりの思いや考えを感性の中心に据えて構成していく、思いの中心である。子どもたちにとって、成長のシンボル「蝶」の主題を考えることは、自分自身を見つめることであり、これまでくり返し振り返っている、身近で取り組みやすい題材である。同時に、深く自分を掘り下げることのできる題材ともいえる。また、本題材は主題に合わせて表現方法、色、材料や用具、形、表現技法を選択追究し、造形感覚や創造的な技能を高められる選択幅のある題材でもある。

② 児童観

本学年の子どもたちは、色水づくりの体験を通して、色を自分なりの感覚で意味づけたり、イメージに合わせて選び取ったり、つくり出したりする色彩感覚が高まっている。また同じ色でも水や絵の具の量により、

濃淡ができることや、混色による色の変化や色の持つ美しさを味わい、色の性質や色と色の関係性に気づき、色彩への理解、色づくりの技能も身に付いてきている。

さらに言葉からうけるイメージを何色もの色で構成すると同時に、思いつくままに単純な形や抽象形で表す活動を行い、色や形を読み取る鑑賞力が高まり、色を思いに合わせて多様に使ったり、抽象的な形に意味づけたりすることができるようになっている。

これまで多様な表現方法や表現技法を学習し、自分の思いを中心に据えた造形活動を行ってきた子どもたちに、自分なりの表現主題を明確に持ち、表現方法、色・形・材料、技法を自分で選択しながら、表現を追究できるような力を身につけさせたいと考え本題材を設定した。

③ 指導観

本題材では、「どんな成長のシンボル＝蝶を表現したいのか」という表現主題を一人一人に持たせることが重要である。そこで、まずは今の自分自身を振り返り、これからどんな自分に成長したいのかをじっくり考えさせ、それを表現するための手だてをアイデアスケッチをしながら考えさせる。表現方法や材料、表現技法などは、主題に合わせて自由に選択できるようにさせたい。アイデアスケッチの段階で、友達同士主題に合った表現ができているかを交流する「イメージする思考過程」を設定し、再度自分だけの成長のシンボル「蝶」の構想を練る。

練り直した構想をもとに、制作する。制作段階では、主題に合わせて自由に色・材料・形、表現技法を選択できるような造形環境を整えておく。また、常に表現をふり返ることができるように、鑑賞交流活動＝「イメージする思考過程」を設定し、納得いくまで表現を追究させたい。

(5) 提案問題

- 成長のシンボル「蝶」を表現するために、主題にあった表現方法、色・形・材料、表現技法を自分で選択し制作させたが、有効な手だてであったか。
- 主題にあった表現を追究するために、鑑賞の場＝「イメージする思考過程」を設定したが、有効な手だてであったか。

(6) 授業の展開

第1次 成長のシンボルのイメージを構想

テーマを決定：自分自身を振り返り、なりたい自分像を考える

友達からもメッセージをもらい、自分自身を見つめるきっかけにさせる。

デザイン決定：テーマもとに蝶の構想を練る

①成長のシンボル「蝶」の構想を練るための手だてを

共有する

a:色

蝶の鱗粉を拡大したものをみて何かを想像する。
蝶の模様的美しさを味わう。

b:形

実際の蝶の形にとられるのではなく自分のシンボルとなる蝶の形を考える。

c:材料

描画材:クレパス, チョーク, コンテ, 絵の具, マジック, 色鉛筆など

紙類:画用紙, カラードフォルム, 段ボール, お花紙, 色紙, 空き箱, 芯材, 写真, 紙皿, トレーシングペーパーなど

布類:毛糸, モール, 布, 不織布, 綿など

自然材料:石, 色砂, 粘土, 木, 木の実など

人工材料:塩化ビニール板, 卵パック, プリンカット

プ, ストロー, フィルムケース, ビニール袋, スチレントレー, スチロール, 緩衝材, スズランテープ, セロファン, ビーズ, ペットボトルなど

金属:金網, アルミ線, 空き缶, アルミ缶, アルミホイルなど

d:技法 既習の技法を思い起こす。

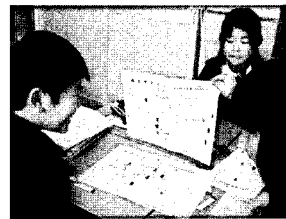
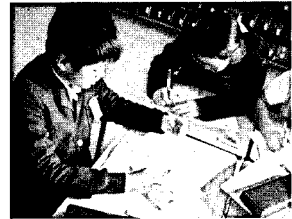
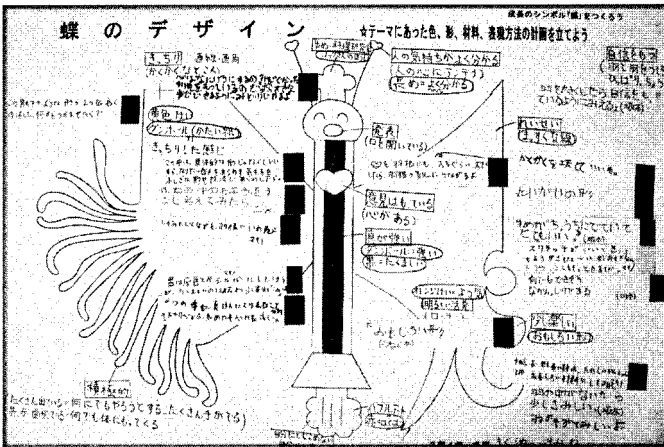
スタンピング, スパッタリング, スクラッチ, デカルコマニー, ドリッピング, パブルアート, ローラー, コラージュなど

②デザイン案に, 表現方法, 色・形・材料, 表現技法の計画を立てる。

アイデアスケッチを思いつくまいくつも描く。そのアイデアスケッチをもとに, アイデアを構成しデザインを一つに絞り込む。そして, テーマと色・形・材料・技法の計画を立て書き込む。

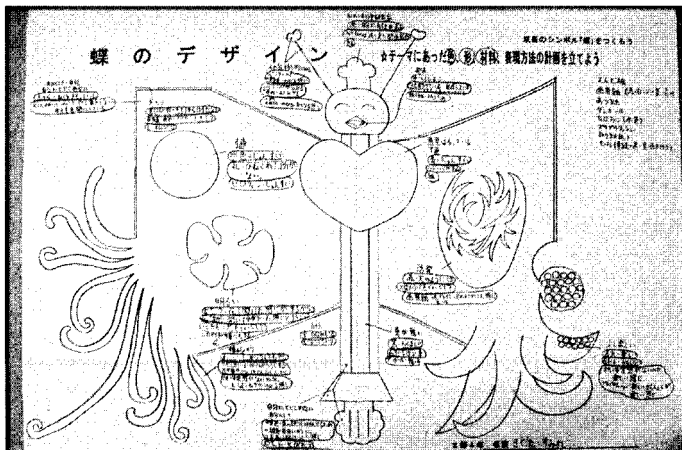
③班の友達のテーマとデザイン案を鑑賞し, アドバイスをする

形・色・材料・技法の4つの観点に分けた付箋紙にアドバイスを具体的に書いて貼る。



④友達のアドバイスをもとに再度デザイン案を練り直す

○ アドバイスを読んでデザインを練り直す姿や, 友達の表現の工夫を吸収しデザインに取り入れる姿が見られた。



第2次 成長のシンボル「蝶」を表現する

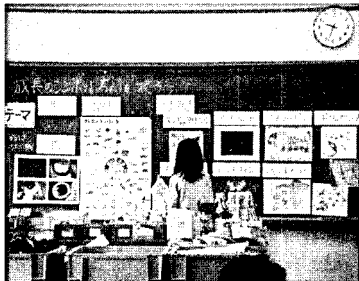
制作：デザインをもとに表現を追究する

①成長のシンボル「蝶」の表現を追究するための造形環境を整える

a:情報環境

テーマに沿った色・形・材料・技法を選択できるように、第1次で共有した手だてを毎時間黒板に掲示する。

- 活動中に悩むと黒板の掲示をみて方向性を見つけていた。



- 授業前には子どもたちによって黒板の掲示をするようになった。

b:材料・用具環境

テーマに沿った色・形・材料・技法を選択できるように、たくさん子どもたちが使いやすいように材料や用具を机の上に準備する。

多様な材料を選択するので、適した接着・接合方法を考えさせる。

- 子どもたちによって毎時間、準備・後片付けをしている。



c:人的環境

表現を追究するために、表現しながら鑑賞もできる雰囲気をつくる。

- 常に子どもたち同士、表現について相談したり、アドバイスをしあったりしている。
- 教師に支援を求めてくるときは、子どもに応じて、アドバイスをしたり、反対に質問をしたり、周りの子どもを巻き込んで、友達の意見を聞かせたりする。
- 一人の子どもの工夫を周りの子どもたちが吸収し、表現に反映させている。

- 友達や教師が授業のまとめや学級の振り返りの時間に表現の工夫点・意欲的な態度をクラス全体に紹介すると、次の時間に意欲的に取り組む姿が多く見られた。

②テーマにあった多様な表現を追究中



本稿では、10時間目の授業の様子を紹介し、鑑賞交流活動の成果と課題を検討したい。

鑑賞：表現を追究するために互いの作品を鑑賞しあう生活班の友達とは、デザイン案を構想する段階から、鑑賞活動を行い、表したいテーマをわかった上で、アドバイスをしあい構想を練りあった。また制作中も、相談したり、アドバイスしあったりして、表現をすすめてきた。

そこで仕上げ前の段階に、席が遠く、本題材においてあまり関わりのなかった子ども同士で新しい班をつくり、テーマあてっこ鑑賞会を行うことにした。自分の思いが表現によってどの程度伝わるかを把握し、それをもとに作品を振り返り、表現を追究させるためである。

本時の目標

- 友達と作品への思いやイメージを交流し、表し方のよさを感じ取るとともにイメージや造形感覚の違いを発見することができる。
- 友達との交流活動をもとに、より主題にあった表現を追究することができる。
- ①新しい班の友達の作品を鑑賞する
 - 友達の作品を鑑賞し、表したかったテーマは何かを、色・形・材料・表現技法に着目し考える。
 - 作品を鑑賞し、質問したいこと、吸収したいことを鑑賞カードに書く。

②本時の学習過程

学 習 活 動	指 導 の 意 図 と 手 だ て	評 価 の 観 点
<p>1 クラス全体で、友達の作品を鑑賞し、主題にあった表現を追究する。</p>	<p>○ 友達の作品を鑑賞し、色・形・材料、表現技法などに着目させ、友達の「蝶」の主題を感じとり発表させる。</p> <p>①30秒間作品をじっくり見せた後隠して、印象に残っているところを聞く。</p> <p>色 :羽の色 形 :身体の形,羽の形 材料:アルミホイル,針金,発泡スチロール,プチプチクッション</p> <p>②作品を鑑賞し作者の思いを考えさせる。</p> <p>○ 作者に、主題を発表させ、表現の工夫点を発表させる。</p> <p>○ 作者の発表を聞き、表し方のよさやアドバイスを発表し、作者が課題を見つけられる手だてとする。</p>	<p>○ 友達の作品の主題を感じ取っているか。</p>
<p>2 班の中で、1の活動を行う。</p>	<p>○ 作者の発表を聞き、アドバイスを鑑賞カードに記入させる。</p>	<p>○ 友達の思いを聞き、アドバイスしているか。</p>
<p>3 作品のしあげをする。</p>	<p>○ より主題に近づけるように課題をもって作品の最終仕上げに入らせる。</p>	<p>○ 課題を発見しそれをもとに、制作しているか。</p>
<p>4 課題と作品の変化を発表する。</p>	<p>○ 追究すべき課題と、作品の変化について発表させる。</p>	<p>○ 課題を発見しそれをもとに、制作しているか。</p>

②鑑賞交流活動をもとに、自分の作品を振り返り、作品の最終仕上げをする。

3. 研究の成果と課題

中央教育審議会の教育課程部会では、学習指導要領の見直しに向けて、「生きる力」を育成するためには、以下のような「思考力・判断力・表現力等」の育成が必要だとしている。

<p>〈思考力・判断力・表現力等〉</p> <p>①体験から感じ取ったことを表現する力</p> <p>②情報を獲得し、思考し、表現する力</p> <p>③知識・技能を実生活で活用する力</p> <p>④構想を立て、実践し、評価・改善する力</p>

これらの力は、まさに造形教育において育てることのできる資質・能力だといえる。本授業の成果を考えてみよう。

まずテーマである成長のシンボル「蝶」をイメージするに当たって、2年間を通して自分自身を振り返りながら、なりたい自分ありたい自分を求め続けていたので、イメージしやすい題材となった。しかし、テーマを自分のイメージに置き換える際にも、友達から自分の性格やよさをアドバイスしてもらい、より自分を見つめることができた。

そのイメージをもとに、構想を練りアイデアスケッチを描いた後にも、友達からイメージにあったよりよ

い形、材料、色、技法についてアドバイスをもらった。今一度、自分の構想を練り直す手立てとなる鑑賞交流活動となった。(①体験から感じ取ったことを表現する力)

制作活動の場面でも、常にイメージに立ち返ることができるように、造形環境を整えた。子どもたちがイメージにあわせて、自由に材料を選び取ったり、技法を試行錯誤したり、構想を立て直したりしながら制作できるようにした。また、友達同士、常に相談したり、アドバイスしあったりして制作を進めていた。鑑賞交流活動を特設しなくとも、自然に、人やものとかかわり、交流できる場を設定できていたといえる。(②情報を獲得し、思考し、表現する力)

さらに、制作の最終段階で、新しい班の友達と鑑賞交流することで、新たな視点で自分の作品を振り返ることができ、それをもとに作品の最終仕上げに活かすことができた。

このように、1年生のうちから、造形要素を系統的に学習してきたことで、子どもたちは自分のイメージにあわせて主体的に、色・形・材料・技法を選び取ることのできる判断力が身につけてきている。(③知識・技能を活用する力) その際、独りよがり判断するのではなく、人とかかわりながらイメージを思考し、自分の構想を練り、表現を振り返り、より深く追究して

いる。(④構想を立て、実践し、評価・改善する力)

このことから、今文科省が求めている「思考力・判断力・表現力等」を育てることができたといえる。

課題としては、最終段階での鑑賞交流活動において、鑑賞者が作者の思いを聞く前にテーマをあてたので、

作者の思いを理解しアドバイスをするに至らなかったことである。制作者は一生懸命制作を進めてきている。作者の思いを大切にしながら鑑賞交流するためには、どのような交流活動を設定すべきか、今後も研究していかなければならない。